

5. 春の交流会を開催いたしました。

日程:4月7日(日)～9日(火)2泊3日。

平成最後の春の交流会は、4月7日にデュオ・セレッソ上越で開催されました。

市からは、影山自治・市民環境部長様はじめ7名、Jネットからは伊藤会長代行を含めて38名の総勢45名が出席。昨年よりも10名も多く、近年では最も多いご出席で大変盛り上がりしました。

交流の宴の最中にも、様々な方々のご祝辞、ご挨拶それに紹介やらがありました。

なかでも、上越出身の画家、川崎日香湊さんが紹介され、和服姿のご本人から、会場に展示された見事な2点の作品を前に、神話から創作までのお話をいただいたことは印象的でした。

地元の皆さまとの心の触れ合いの大切さをしみじみと感じながら、和気藹々と語らい地酒を飲み食事をいただきました。1年ぶりの再会や昔話に花を咲かせている光景を目の前にして、春の交流会は地元との絆で結ばれる格好の場だと思いました。

その後、その日の宿、板倉のやすらぎ荘へ向かう途中で、高田公園や青田川の土手堤の桜を車窓から眺めました。一斉に咲いたピンク色の染まった風景が、私たちを歓迎し心を癒してくれました。やすらぎ荘の近くでは、あちこちに残雪があり、この地の厳しい冬の名残と日本の原風景を垣間見ることができました。宿に着き、温泉に入り、取りたての山菜の天ぷらなどの食事に舌鼓を打ちました。夕食後はカラオケで皆さまの上手さ、とりわけ、勝島副会長のこぶしのきいた節回しに驚嘆しつつ、初日はお開きとなりました。

2日目は、昨夏にオープンしたうみがたり(水族館)です。途中、親鸞上人上陸の地「居多ヶ浜」の展望台から日本海を眺めましたが、浜辺近くの白いさざ波と紺碧の穏やかな大海が心を静めてくれました。

そして、いよいよ待望のうみがたり。開場1年未満でも入場者数は85万人に到達するとのこと、平日のこの日も長野からの団体客などで賑わっていました。人気の高いマゼラン・ペンギンとの触れ合い、そして、イルカショー等々見どころ満載で、大人も十分楽しめる施設です。

「一纏」での昼食後、直江津船見公園近くの「ライオン像のある館」を訪れました。「ライオン像のある館」は、2日前の4月6日に開館したばかりで、旧直江津銀行の本店を移築した建物です。銀行解散後、北前船の船主高橋回漕店が買取り、事務所と使用していました。市内最古の洋風建築で入り口のライオン像は市民に親しまれていたそうです。

ここでは、北越出版の佐藤和夫先生から、北前船で栄えた直江津の話をお聴きました。北前船が北海道から昆布、にしん等を積載して、直江津沖で荷物を降ろして、陸路で関西や薩摩に運ぶ中継点として直江津今町が大変栄えていたと聞いて驚きました。直江津はこの地方の商業の中心地だったのです。



その後、物産センターで土産物をたっぷり買ってから、2日目の宿「うみてらす名立・ホテル光鱗」に向かいました。

このホテルでの圧巻は何と言ってもお料理でした。1月の新年会の講演で長崎一生先生の話に出てきた「どろエビ」が、なんと、頭尾の殻付き刺身で、てんこ盛りで登場しました。

長崎先生は、「地元の漁師だった我が家では、どろエビと甘エビのお刺身を食卓に出すと、先ずどろエビが無くなります」と言われたが、まさにその通り。どろエビのお刺身は、本当に美味しく、感嘆しました。ゴリゴリして濃厚な甘みがあるのです。造形がグロテスクで体色も良くなく醜い姿ですが、甘エビよりはるかに美味しいと思いました。

さらに「どろエビの頭の天ぷら」と「どろエビの身のかき揚げ」もいただきましたが、これも実に美味しく頂戴しました。

水深300mに生息するどろエビは漁獲量も少なく、また、非常に傷み易いので、揚げ地でほとんど消費されます。今回も市場にはなく、偶々、名立漁港に上がったのです。ホテルと料理長の気配りに感謝するとともに、我々の運も強かったのです。

翌朝、NHKのテレビを見ていたら偶然にも前日に訪問した「ライオン像のある館」が放映されていたのには驚きました。何か因縁を感じました。

3日目は、朝食後、榊原の殿様の榊神社に参拝し、隣の舞楽殿に飾られている立派な雛人形を見て、雙輪館で榊原家歴代藩主掛軸を見て榊原家の故事来歴の一部を覗き見ることができました。

そして、昨年7月に改築開館した歴史博物館では、上越市の学芸員から古代から近代までの上越市のあゆみの説明を受けた後、屋上に出て公園の桜を見ると、下で見るのとはずいぶん趣が異なり、青空に映えてとても美しくみえました。

次にあるるん畑で新鮮なお刺身盛の昼食を取り、魚住かまぼこ店では「石臼練り」と「ひと晩座り」の伝統を守るカマボコ作りに感心しました。

今回初めて春の交流会に参加して、地元の人たちと話が出来たことが大変良かったです。また、旅行では、様々などころに行き高田と直江津の違い、新旧の融和と調和等々…勉強になりました。少しは越後人に近づけたかと自己満足をしています。

それにしても、天気予報では旅行中は曇りか雨模様とのことでしたが、上越妙高駅を降りたときの快晴から始まり、最後まで雨に降られることはありませんでした。聞けば、今回参加の女性陣は、全員は晴れ女、晴れ娘とのこと。おかげさまで、3日間は好天気にも恵まれ、本当に楽しい旅となりました。

感謝！感謝！

(溝口良二 記)

